

福井県立美術館

# 友の会

恒例の秋の見学会には40名の方が参加され、1日目は国立西洋美術館で「レンブラントとレンブラント派」を鑑賞後、上野公園内を自由散策、2日目は損保ジャパン東郷青児美術館で「ゴッホと花」、サントリー美術館では当館蔵の岩佐又兵衛「三十六歌仙図」などが展示された「日本絵画に見る女性の躍動美」を鑑賞しました。

## 「秋の見学会」アンケートから

レンブラント、ゴッホ、ピカソとぜひこの上ない鑑賞に大変満足しました。絵画の向こう側にある作者の思いとか生活とかは勉強不足でわかりませんが、バスの中での学芸員さんの説明の中から少しでも何かを感じたいなと思い、老眼鏡をつけたりはずしたり大忙しでした。

国宝「松林図屏風」の真暗な部屋で薄暗い照明に浮かび上がる「松林」に感動しました。レンブラントの「悲嘆にくれる預言者エレミア」、ゴッホの「三幅対」など、一生の思い出旅行になりました。



損保ジャパン東郷青児美術館にて

平成16年度

## 会員募集

### 活動内容

1. 友の会ニュース・美術館だよりの発行、配布
2. 県外美術館見学会の実施(年2回)
3. 実技講座・美術講座の開催
4. 企画展鑑賞会の開催

### 特典

1. 常設展はいつでも無料でご覧いただけます。
2. 企画展無料入場券の配布があります。
3. 県立美術館主催、共催の展覧会が2割引でご覧いただけます。
4. ミュージアムグッズが2割引でお求めいただけます。

### 会費(年間)

【一般会員】 2,000円 【家族会員】 4,000円  
【特別会員】 10,000円

### 友の会とは...

福井県立美術館友の会とは、美術に親しみ、美術鑑賞会などの催しものをおして親睦を深めようとする人たちの集まりです。

### 会員期間

4月1日から翌年3月31日までの1年間

### 申込み方法

郵便振替、または申込み用紙に会費を添えて、美術館窓口で直接お申し込みください。

### 【郵便振替でお申し込みの場合】

振替用紙の通信欄に「住所・氏名・生年月日・電話番号・職業」をご記入のうえ、次の口座に会費をお振込みください。

《口座番号 0700-8-41543》

詳しくは、県立美術館友の会事務局までお問合せください。  
県立美術館友の会事務局 TEL.0776 25 0452

広  
報  
板

## 日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

### 滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740 TEL:077 543 2111

#### 染め・織り・竹・陶の美展

2月21日(土)~4月4日(日)



友禅の森口華弘、絨織りの志村ふくみ、鉄釉陶器の清水卯一など人間国宝作家を中心に、県指定無形文化財の信楽焼、竹工芸を含む工芸作品の秀作を紹介する。

志村ふくみ「切離・型斗目拾遺」

一般:800円(600円)/高生:600円(400円)/小中生:400円(300円)  
括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

### 岐阜県美術館

岐阜市宇佐4 1 22 TEL:058 271 1313

#### 第2回 円空大賞展

1月10日(土)~3月7日(日)



岐阜県ゆかりの江戸時代の修行僧「円空」にちなんで制定された「円空大賞」展。第2回になる本展では、国内外7名の受賞者たちの優れた成果を紹介する。

加藤昭男「何処へ」、1991年

一般:800円(700円)/高生:600円(500円)/小中生:400円(300円)  
括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金

### 三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059 227 2100

#### 神と人とファラオ - 古代エジプトの美

2月14日(土)~4月4日(日)



本展では、ウィーン美術史美術館のエジプト・コレクションの中から、王や神々の姿を型どった石像や浮彫、ミイラと棺や副葬品、さらには当時の人々が愛用した生活用具に至るまで、貴重な資料約140点を展示する。

「ホルエムヘプ王とホルス神の座像」  
新王国時代 第18王朝(紀元前1343 - 1315年)

一般:1,100円(900円)/高生:900円(700円)/小中生:600円(400円)  
括弧内は、前売りおよび20名以上の団体料金



桑原 正彦「無題」1999年  
(「あるサラリーマン・コレクションの軌跡 ~戦後日本美術の場所~」より)

## contents

- ❖ あるサラリーマン・コレクションの軌跡 ~戦後日本美術の場所~ [2~4]
- ❖ 所蔵品によるテーマ展「人間の表現」 [5]
- ❖ 移動美術館 小浜展 [5]
- ❖ 貸館情報 [5]
- ❖ 展覧会予告「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち」 [6]
- ❖ 平成16年度実技講座受講生募集 [7]
- ❖ 平成16年度ボランティア会員募集 [7]
- ❖ 福井県立美術館友の会 [8]
- ❖ 広報板 日本まんなか共和国 [8]

# あるサラリーマン・コレクションの軌跡

～戦後日本美術の場所～

2004年3月5日(金)～28日(日)

主催/福井県立美術館 後援/福井新聞社



## 関連事業

**コレクターと語る会** 聴講無料  
3月20日(土) 午後2時～3時30分  
本展のコレクター本人が  
コレクションの秘密を語ります。

**担当学芸員によるギャラリートーク**  
毎週日曜日 午後2時～3時  
(観覧チケットが必要です)

\*\*\*\*\*

会場/福井県立美術館  
福井県福井市文京3-16-1  
開館時間/午前9時～午後5時まで  
(入館は午後4時30分まで)  
休館日/月曜日  
観覧料/一般 800円・大高生 500円・  
中小生 300円  
(30名以上の団体は2割引)

《同時開催》  
所蔵品によるテーマ展「人間の表現」  
(本展チケットにてご覧いただけます)

## 出品作家

安齋重男、池田満寿夫、石川順恵、井口大介、磯辺行久、磯見輝夫、井田照一、井上長三郎、上前智祐、榎倉康二、太田三郎、大畠裕、大森運夫、大矢雅章、岡村桂三郎、オノデラユキ、郭徳俊、梶喜一、片岡球子、桂ゆき、加藤泉、加納光於、河口龍夫、河原朝生、川俣正、菊地武彦、北籾和夫、木村光佑、草間彌生、鞍掛徳麿、黒崎彰、黒崎俊雄、桑原正彦、桑山忠明、合田佐和子、合田ノブヨ、小嶋悠司、小松均、小山正太郎一派、斎藤智、斎藤隆、斎藤嗣火、斎藤美奈子、坂本善三、佐熊桂一郎、塩川文麟、塩見暉夫、嶋田美子、清水登之、白井昭子、白木正一、末松正樹、菅木志雄、須田剋太、関根伸夫、千崎千恵夫、高島野十郎、多賀新、高橋克之、高松次郎、高山徹、高山登、竹田和子、辰野登恵子、館勝生、田中田鶴子、中川幸夫、中西夏之、中林忠良、中原浩大、中村宏、野田哲也、浜田浄、半田強、彦坂尚嘉、日和崎尊夫、伝藤田嗣治、古沢岩美、星野真吾、堀尾貞治、堀浩哉、眞板雅文、間島領一、増田誠、松谷武判、松本曼、三上誠、三島喜美代、向井潤吉、村井督侍、空田たけを、森光子、森野真弓、森村泰昌、森山知己、八木岡春山、山下菊二、山本弘、吉原芳仙、李再煥、和田賢一、アンリ・ミショー、ラインハルト・サビエ ほか

## 出会ったとき、私の心に触れたもの

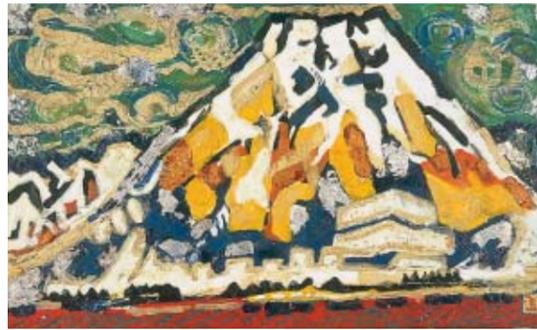
世の中にはすごいサラリーマンがいます。20代の後半、美術にめざめ、以来40年間に集めた作品は、なんと1000点以上。遺産があったわけでも、株で大儲けしたのでもありません。すべては、サラリーマンの小遣いをやりくりして買ったものです。もちろん、仕事は人並み以上にこなしてのことです。これだという作品に出会うまで、休日の全てを使って個展を回ります。信じるのは自分の直感だけ。名の知れた巨匠はとても高く手が出ません。自然に、若い作家が気になり始め、現在活躍している作家の初期の名作がたくさん集まりました。「出会ったとき、私の心に触れたもの」。これが作品を買う唯一の方針です。そのため、日本画、洋画、版画、写真、現代美術まで、あらゆるものが平等です。ジャンルの境界から自由なアートたちは、生き生きとしています。静かに語りかけてくるような作品が多いのも、このコレクションの特質です。一般にはあまり知られていない、力のある作家たちの作品も目を引きまします。なかには、とても貴重な戦争画も含まれています。実は、このサラリーマンは美術資料の収集家として美術界では知らぬ人のない人物でもあるのです。

本展は一市民の目から見た戦後日本美術の記録という、今までにない視点から日本の美術を問いなおす企画です。大企業や美術館とは異なるコレクションの小宇宙は、わたしたちを幸せな気持ちにしてくれます。個人とアートとの豊かな関わりをみせてくれます。一人のサラリーマンが、勤めのかたわら、築きあげた驚きのコレクションを是非ご覧ください。



巷の著名作家の大作中心の王道コレクションに対するならば、一サラリーマンであった私のコレクションはさしずめローカルな小品コレクションともいえる。私の家族が、これらのコレクションを指して「ガラクタコレクション」というのに、どこかで私自身納得しているのも以上の理由による。勿論このガラクタとは、家族の心情的なもので、作家や、作品を指していつているのではないことはいうまでもない。

コレクターからのメッセージ  
展覧会図録連載の、コレクターからのメッセージ  
「思い出すままに...コレクションを省みて」  
より抜粋



片岡 球子「冬の富士」  
1965年頃

新潟のカメラ店の社長に東京で買って来たという、「火山」などで注目を集めていた球子のこの作品を見せられ、作品の持つ今まで経験のない富士山の造形感覚に驚く。フジフィルムを扱っているのに、富士の絵をとって入手の経緯を聞いて譲渡依頼、最初は渋っておられたが、暫く日をおいてわけていただいたもの。丁度この時期から制作開始した「面構えシリーズ」と同時期に「富士山シリーズ」が開始され、その初期の作品にあたる。



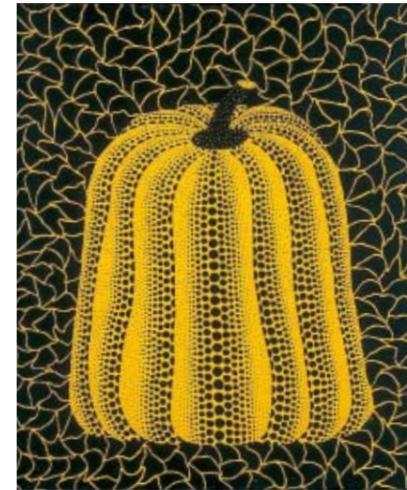
加藤 泉「ヨキカオ No.13」  
1997年

顔を数多く制作するが表情に愛すべきものがある一方で、知性や言葉を拒否する風貌がある。黙って作品の前に立つと、無意識のうちに観者を根源的なものに、今に生きる自分に引き戻す。この作品の顔に惹かれて購入。



川俣 正「ベニスビエンナーレのためのPlan」  
1982年

川俣がベニスビエンナーレに出品する事になり、その資金作りのため個展開催したが、ドローイングを7点東京現代美術館が購入したのみで、プラン・マーケットが売れず困っていた。作品も気に入ったので4点まとめて購入協力。購入直後、美術に縁の薄い娘婿が玄関先でこの絵を見て名前を覚え、暫く立って「フォーカス」誌に掲載された川俣の記事を「あの作家では？」と示され驚いた。



草間 彌生「南瓜」  
1983年

草間の最近の活躍は素晴らしい説明の要なし。繰り返し制作しているモチーフでこの作品もまたすばらしい。



小山 正太郎一派「日清戦争写真図下絵」  
1895年

戦争画関連として1999年に持ち込まれたもの。作品のなかには小山正太郎の手になるものと判断されるものもあったが、描き手が違うものも見受けられ複数の人の制作になるものと推量された。弟子も含めた工房制作ともとれるもの。パノラマ画の下絵とも考えたが小さすぎ、調査したが判明せず「戦争期の美術展」に、謎の絵画として経緯を書き、展示したところ、作品の写真が神奈川近代美術館の「描かれた歴史展(1993)カタログに掲載してあることを示唆する方が現れ、同展に資料を貸し出した川崎市民ミュージアムの協力を得て、「日清戦争写真図」のために「写真の戦闘場面を補うものとして画家に描かせた」制作されたことが判った。

梅原龍三郎旧蔵品で、一部傷みもみられるが全般的に裏張りを施し補強されていて、このことから大切に保管されていたことが判る。資料的にも貴重な作品。



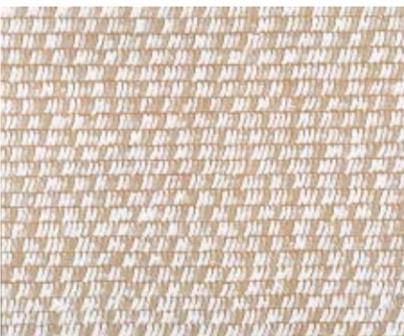
高島 野十郎「青いリンゴ」  
1953年

天野書店に立ち寄り、向かいに古美術店が開店したと聞き覗く。小さなものがなく立ち去ろうとして、入り口の近くの紐で縛ってある額縁に気付き、見せてもらったところ、マチエールの堅牢なしっかりと静物の良品があり、名前で野十郎の真筆と咄嗟に判断、値段を聞いたところ3万とので驚き「エッ」といったら2万でいいと値引き。手元の2万を払い作品を受け取り、古美術店前の天野書店に一時保管を依頼し預けそのまま銀座に出た。夜家に帰り手元資料で調査したところ間違いないと判明。



半田 強「葱坊主」  
1976年

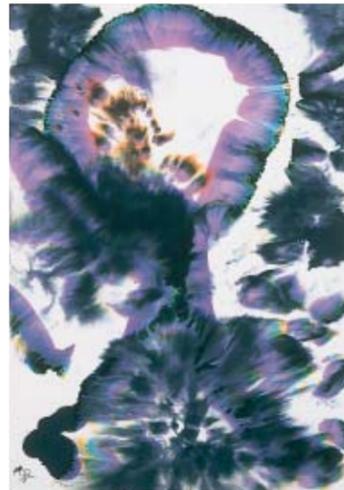
小田急で第1回半田強個展予告の展示作品を見て驚き、展覧会をみてさらに驚く。圧倒され、値段を聞いた作家が手元に置きたいといっていたことであつたが、将来手放すおりに作家が買い取る条件で購入。一見田舎道で出会いそうな雰囲気であるが、風貌からただ者でない何かを感じられる。一見したら忘れられない強烈なドラマチックな印象を観者に与える作品。



李 禹煥「線より」  
1977年

この作品は李がイタリアのマルボローで開催の個展の出品作品の中から、特に選んで100号3点を自己保存用として持ち帰っていたものを、シロタ画廊が買い取り、それを譲り受けた。李はヨーロッパでは湿度の関係で一貫してアクリルを使用しており、日本で実見する事はできない。

\*各コメントはコレクター自身によるものです。(図録より転載)



中川 幸夫「花楽」  
年代不詳

彼の生様は類を見ない、また独自の造型感覚は花に、写真に、立体に、書に、墨画に、パフォーマンスに開化し、多くの文化人を巻き込み共感をよんでいる。「花楽」と題するパフォーマンスで、花汁を用い即興的に作画した一連の作品。



松本 晃「モード(B)」  
1967年

松本はもともと浮世絵の刷師であった。持ち前の技法と技の冴えた仕事がこの作品に結実した。80年代の「順列」の仕事は、旧来の作品に見られる、情緒やイメージを排除し、造型の純化を試みている。混色をしない、だれにでも入手可能な市販の色を使用し自分の色は使用しないなど自己規制を徹底し、形も単純に順列に置き換えて、形と色の純化というギリギリの表現を自己に課して作品を制作している。

## 所蔵品によるテーマ展

### 第6回 「人間の表現」

会期:平成16年2月27日(金)~3月28日(日)



小島信明「失われた場を求めて」

今回の所蔵品によるテーマ展「人間の表現」では、ショッキングな非日常的シーンと日常のありふれたシーンのマス・メディアをおした写真を組み合わせることにより現代の人間像を表現した森山大道の「イメージ'69」や、簡潔に描かれた人間像のなかに作家の思想が込められている富田惣七の(人シリーズより)ほろびの人、垂直に立ちただかる壁に對峙する人間を立体で表現した小島信明の「失われた場を求めて」など、人間を題材にした様々な作品を展示することにより、各々の美術家がどのように人間を表現してきたかをご紹介します。

あるサラリーマン・コレクションの軌跡  
ご入場の方は、一緒にご覧いただけます。



森山大道「イメージ'69」



富田惣七「(人シリーズより)ほろびの人」

## 移動美術館(小浜展)

### 岡島コレクションと工芸



玉陽軒勝剛「面尽図前金具」(岡島コレクション)

福井県立美術館では当館のコレクションを地域の方々にも身近なものとして鑑賞していただくことができるよう、各市町村の協力を得て移動美術館を開催しています。

小浜市での開催は本年度2回目となりますが、今回は大野市出身でニューヨークで美術商として活躍した岡島辰五郎氏が収集した刀装具や喫煙具など細密な金工品が主体のコレクション「岡島コレクション」と館蔵のその他の工芸品を紹介します。

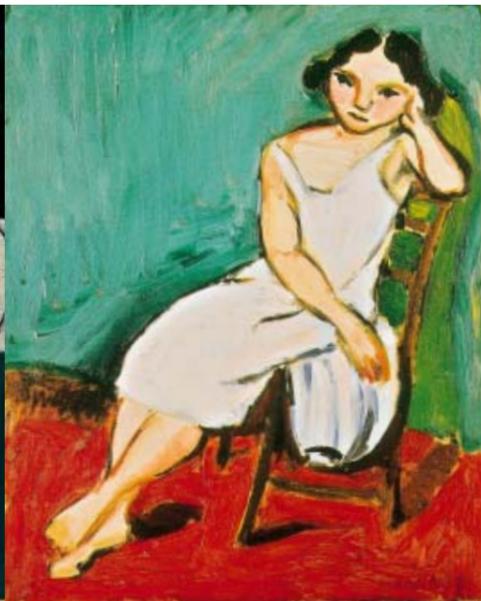
岡島コレクションは小浜市では初めての公開になります。この機会にぜひ本展に足をお運び下さいませようお願いします。

会期:平成16年3/10(水)~23(火)  
休館日:3/15(月)・22(月)  
会場:福井県立若狭歴史民俗資料館  
小浜市遠敷2丁目104  
tel.0770 56 0525  
開場:午前9時~午後5時  
(入場は午後4時30分まで)  
観覧料:一般・大学生100円  
(団体30名以上は2割引)  
高校生以下・70歳以上・  
身体障害者の方は無料

ご来場の際は、公共交通機関をご利用くださるようお願いいたします。

### 貸館情報

3/5~3/7	福井大学書道部卒業制作展	3/31~4/4	鯖江市立インテリジェント	4/8~4/11	第31回 失われゆく自然人間展
3/12~3/14	草木染・色・いろ展	4/1~4/4	デザイン講座 第16期生修了制作展	4/16~4/18	水引手芸作品展
3/17~3/21	鈴木良介の風景/建築スケッチ展	4/7~4/11	第12回 グループS洋画展	4/22~4/25	春のひだまり
3/24~3/28	光和クラブ・写画四季合同写真展	4/7~4/11	第22回 究展		
			第2回 グループ彩作品展		



展覧会予告

# ピカソ、 マティスと 20世紀の画家たち

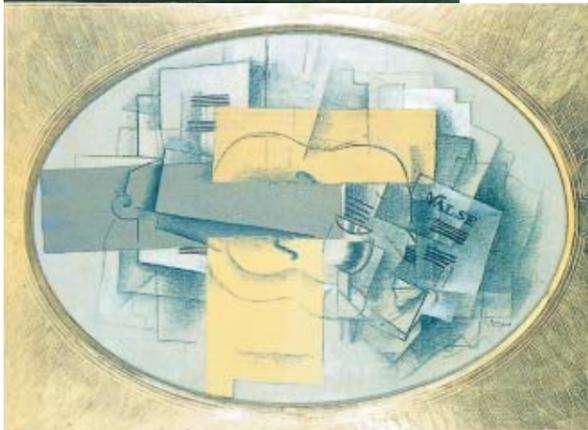
フォーヴィスムとキュビスム

2004年  
4月16日(金)~5月16日(日)

主催:福井県立美術館、福井新聞社  
後援:フランス大使館、福井市、福井市教育委員会、  
福井県文化協議会、NHK福井放送局、FBC福井放送、  
福井テレビ、FM福井  
協力:エール・フランス

開館時間:午前9時~午後5時  
(入館は4時30分まで)  
夜間開館:毎週金曜日は午後8時まで開館  
(入館は7時30分まで)  
休館日:4月26日(月)・5月10日(月)  
観覧料:一般 1000円(前売り800円)  
大高生 700円  
中小生 500円  
(30名以上の団体は2割引)

講演会  
「ピカソが封印したキュビスムの謎」  
講師:北川健次(美術家/作家)  
4月29日(木曜日・みどりの日)午後2時~  
於:当館講堂 聴講無料  
当館学芸員によるギャラリートーク  
4月25日(日)・5月2日(日)・5日(水)・9日(日)・16日(日) 午後2時~  
於:展示会場



3	2	1
4		
5	6	

1. アンリ・マティス「腰掛ける少女」  
(1909年頃/ルートヴィヒ美術館、ケルン蔵)
2. パブロ・ピカソ「葡萄の帽子の女」  
(1913年/ボラー美術館蔵)
3. アルベール・マルケ「ゲーレットの窓」  
(1926年/ボルドー美術館蔵)
4. ホアン・グリス「サイフォン、グラスと新聞」  
(1916年/ルートヴィヒ美術館、ケルン蔵)
5. ジョルジュ・ブラック「ヴァイオリンと楽譜」  
(1912年/ルートヴィヒ美術館、ケルン蔵)
6. モーリス・ド・ヴラマンク「プロカ病院」  
(1917年/ボルドー美術館蔵)

20世紀初頭のフランスで注目された代表的な美術運動がフォーヴィスムとキュビスムです。彼らは、19世紀の後半に獲得された近代美術の成果を引き継ぎ、20世紀美術の新境地を開拓しました。

マティスに代表されるフォーヴィスムの画家たちは、造形要素の中でも特に色彩に注目し、固有色の否定、色彩による画面構成を主張し、鮮やかな色彩と大胆な筆致を特徴とする作品群を残しました。しかしフォーヴィスムの画家たちは何らかの綱領をもった結束した集団ではなく、各々が個性を保持した輪郭のはっきりしない運動でした。

またピカソとブラックに代表されるキュビスムは、造形要素の中でも特に空間に注目し、ルネサンス的パースペクティブを否定し、絵画固有の空間を創造しました。彼らの運動はキュビストと呼ばれる同調者を生み、全ヨーロッパに広がる運動となりました。

本展では、フランスのボルドー美術館やドイツのルートヴィヒ美術館をはじめ、国内外の美術館や個人コレクターの協力を得て、あらためてフォーヴィスムとキュビスムの画家たちに焦点を当て、20世紀美術の方向付けをした2大運動を、総数約100点の作品によって紹介します。

## 平成16年度 福井県立美術館実技講座受講生募集要項

種別	基礎講座			専門講座		
	日本画講座	洋画講座	彫刻講座	日本画講座	洋画講座	彫刻講座
指導講師	湯浅 満	坂井敏之	古市貴代	塩出周子 湯浅 満	小原 勉	池田雅彦
定員	20人	30人	10人	20人	30人	10人
会場	県立美術館実技研修棟			県立美術館実技研修棟		
期間	平成16年4月3日~6月19日(延10回(土曜日))			平成16年7月3日~平成17年1月29日(延25回(土曜日))		
時間	午後1時30分~4時30分			午後1時30分~4時30分		
対象	作品制作の初歩的な基礎を学ぼうとする者			作品制作の経験があり、さらに専門的に学ぼうとする者 基礎講座の受講経験がある者		
受講料	7,500円			19,000円		
材料費	受講生実費負担			受講生実費負担		
開催日	平成16年 4月/3日・10日・17日・24日 5月/8日・15日・22日 6月/5日・12日・19日			平成16年 7月/3日・10日・17日・24日・31日 8月/7日・21日・28日 9月/4日・11日・18日・25日 10月/2日・16日・23日 11月/13日・20日・27日 12月/4日・11日・18日・25日 平成17年 1月/15日・22日・29日		
募集期間	平成16年3月2日(火)~3月21日(日)			平成16年5月1日(土)~5月30日(日)		

### 応募方法

必ず官製ハガキ(往復ハガキ)を使用し、右記の所定事項を記入の上、投函して下さい。  
記入は、楷書で明確にお願いします。  
電話による応募の受付はいたしません。

### 応募条件

16歳以上で県内に居住する者、または県内に在学および勤務する者。

### 受講者の決定

応募者が定員を超えた場合は、抽選により決定します。  
(新規応募者優先/結果は締切り後10日以内に連絡します)

### 問い合わせ先(宛て先)

福井県立美術館 実技講座係  
〒910-0017 福井市文京3丁目16-1  
tel.0776-25-0452

### ハガキに記入する事項

- ① 講座種別と科目(例:専門講座、日本画)
- ② 氏名(ふりがな)、性別
- ③ 生年月日、年齢
- ④ 住所、電話番号(連絡先)
- ⑤ 専門講座に限り、経験の程度を簡単に記入して下さい。  
(例:年度基礎講座受講、年、県・市美展入選、入賞)

### 作品展日程

平成17年3月6日(日)~3月13日(日)  
搬入:平成17年3月5日(土)  
搬出:平成17年3月13日(日)16:00~17:00

講師急病などやむを得ない都合により日程が変更または代替講師になる場合があります。  
材料は受講生実費負担として各自で用意していただきます。  
作品や道具類はその都度お持ち帰り下さい。

この講座は福井ライフ・アカデミー事業と連携しています。

## 美術館ボランティア会員募集

福井県立美術館ボランティアの会では、平成16年度の新規会員を募集します。会員資格は高校生以上の方で、月2回以上の活動が可能な方です。ご興味のある方は、「ボランティアの会事務局」(TEL:0776-25-0452)までお問い合わせ下さい。

ボランティア活動の内容は、来館者の方に向けたインフォメーション・サービス、美術資料の整理、展覧会会場での作品解説や監視などです。あなたも、美術に親しみながら、美術館の仕事のお手伝いをしていませんか?

《 なお、入会にあたっては事前に、体験実習及び育成講座を受けていただきます。》